

日中友好新聞

読字 原田 親

No. 611

2010/7/25

日中友好協会  
岡山支部  
〒700-8256  
岡山市東3-8-30 511  
TEL:0861272-3010  
郵便番号11所  
01250-0-3995

日中友好協会  
倉敷支部  
〒713-9011  
倉敷市連島中央1-8-1  
(宮地方)  
TEL:FA3080146-2711

# わがひとりの七夕

## ― 盧溝橋事件73周年街頭宣伝 ―

日中友好協会は、盧溝橋事件73周年記念日の7月7日 全国いつせいの街頭宣伝を行いました。

7月7日、水曜日、表町商店街通りは、竹の笹に願いを書いた短冊をかけた七夕飾りと、平和の波おかやまの主催で千羽鶴が飾られていて、わくわくするような風情を醸し出していました。その雰囲気の中恒例の日中全面戦争のはじまりとなつた、盧溝橋事件73周年の宣伝をアリスの広場前で行いました。

を起し、以後8年間もの侵略に苦しめられた日なのです。」と、マイクで訴えようと、途行く人の中には、わざわざ垂れ幕を見て、チラシを受け取ってゆく人もおられました。日中友好協会岡山支部では、9月18日の柳条湖事件とともに中国との不再戦を誓う日として、広く県民に知らせています。今日も理事を中心に5人の参加で700枚のチラシを配布しました。

稲葉泰子

## 「盧溝橋事件」のチラシを教材に学習

### 長岡日本語教室で



長岡日本語教室で解説をする講師の坪井さん



天満屋アリスの広場前で街頭宣伝をする岡山支部の人々

### 倉敷支部でも7・7記念日に駅前宣伝

7・7「盧溝橋事件」73周年記念の日、倉敷支部でも全国統一行動に呼応して、駅前街頭宣伝を行いました。当日は大森支部長以下6人が駅頭に立ち、ハンドマイク宣伝に合わせてビラ250枚を配り途行く人々に訴えました。

宮地



倉敷駅前街頭宣伝をする倉敷支部の人々

長岡日本語教室は、7月7日(水)、日中本部が作ったもうひとつの七夕「盧溝橋事件」のチラシを教材に学習しました。チラシの内容の読み合わせ、1937年7月7日の盧溝橋事件の解説や、中国と日本での受けとめ方などについて話し合いました。特に、講師の坪井さんが、日中友好運動の原点である「日中不再戦」の意義を強調しました。

### 中国全土への侵略は 盧溝橋事件から

1931年9月18日に中国・瀋陽郊外の鉄道線路を日本軍が爆破し、これを中国軍のしわざとした柳条湖事件をきっかけに日本は中国東北部を占領し、事実上自分たちが支配する「満州国」を作りました。

日本軍が中国全土で行った残虐行為は、今もなお中国の国民に深い傷を残しており、日本政府の責任の明確化と謝罪を求める声が続いています。戦争は2000万人を超えるアジア諸国民を犠牲にし、1941年以降は太平洋地域にも拡大され、空襲、沖縄戦、原爆を含め310万人を超える日本国民が犠牲となりました。この日中全面戦争の発火点が、7月7日の「盧溝橋事件」でした。



神原加代子さん 高粱の武家屋敷

第23回岡山きりえ展が、7月6日から11日まで、岡山県天神山文化プラザで開催されました。日中友好協会岡山支部では、これまで協賛団体として、展示会の案内(チラシ)を日中友好新聞に同封などで協力してきました。

今回も日中友好協会主催の第42回全国きりえコンクールに参加し優秀作、入選作、佳作などを受賞したメンバーの作品もありました。私は、岡山きりえ展を近年楽しみにしています。会場に入ると昔懐かしい田園風景や生活感のある作品が目に入り、落ち着いた温かい気分になります。今回は特に神原加代子さんの「高粱の武家屋敷」は、カラーでみると最高でした。日中友好の心情を育む文化活動の一つとして、今後も展示会の宣伝と同時に多くの会員が参観し、交流を深めていきたいと思います。

日中友好協会事務局長 小林軍治

## 第23回岡山きりえ展

日中友好協会岡山支部ホームページ  
<http://rizhong.web.infoseek.co.jp>  
メールアドレス  
rizhong86@hotmail.co.jp



# 第80回日中文化講座

「いまの中国をどう見るかー映画・漫画を通してー」

石子順氏 講演 ㊸

四川のうた」の中で、労働者達がインターナショナルを歌うんですよ。これがまた、意外と胸に伝わるんです。なんとも言えない映画作りで、わが祖国「みたいな誇りは一体どこへ行ったのか。かつては社会主義をめざすということをやっていた意識というのが絶対的に崩れないと思っていた。自分たちは永久に、子孫の代々まで同じ工場で働けると思っていたのが、本家

本元の工場がなくなってしまっただけです。こんな不確かな時代、しかも民間企業に売り払って、我らとしたら絶対手に入らないような家が建てられた。そういう矛盾をこの映画は、語りで、話す労働者は男であつたり女性であつたり、その彼らにカメラを向けて話させているんです。

この映画は、中国の古い時代を描いた映画でもあるし、今を描いた映画でもあるんですが、中国人の生きる意識、生き抜く力とでもいうのかな、どんなに時代が変わっても生きていく意志、そういうものが根強く残っている、根強く働いている、映画というのはそういうものなのかということをつくづく感じさせるんです。

つづく

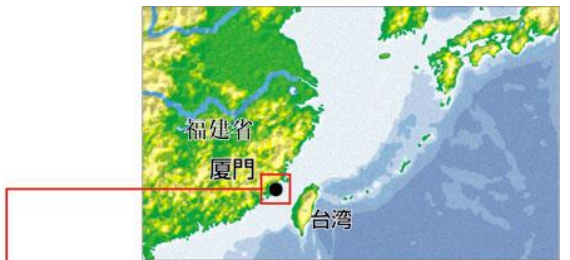
# 中国・福建省に行ってきました。㊸

真田 紀子



翌日(3日目)は、廈門市内観光です。ドイツ製の大砲が残っているという故里山砲台に行きました。ここでは毎日何回か、観光客に見せるため、砲兵の行進と大砲を撃つイベントが行われていて、その時間にあわせて、私たちも行ききました。その写真がこれです。大砲を撃つ場面では、空砲とはいえないほどの大音響でした。

近頃の保育園か小学生の子ども達も大勢見学に来ていて、大賑わいでした。折角ですから記念写真もとりました。



次回の新聞発送作業は  
8月2日(月)午後1時半  
民主会館2階で行います。  
前回お手伝いくださった方です。

吹林 和  
小井 竹内  
白井 竹内  
白井 三垣



岡山高退教主催の第12回作品展が、6月30日から7月4日まで、岡山県生涯学習センターで開催されました。

岡山高退教とは、岡山県の高校、障害児学校を退職した教職員の組織です。今回の作品には、日中友好に関する展示が3点ありました。



# 岡山高退教の第12回作品展 日中友好の展示も

1点は、日中交流を詠んだ短歌10首です。5首紹介します。歓迎ムードに笑顔たやさぬ温首相

されど胸内にひめたるものは  
十億を超す民の国中国の包容力と行動力よ  
チャンコロと呼びて嗤いし日中戦に

若き兵士ら数多送りし  
幾人を白木の箱に迎えしか名譽の戦死と心にもなく  
大陸に転戦したる元兵士戦のことは多く語らず

2点は、書の部で論語「子曰巧言令色鮮矣仁」です。

3点は、日中倉敷支部の大森支部長が、手帖社から出版した藤野先生「魯迅著の翻訳です。なお、岡山高退教には、日中岡山・倉敷支部の会員が数十名います。会の活動に協力しています。